

東 學 Gaku AZUMA

『舞禱～十羅刹天妖』

■展覧会名 東 學 (Azuma GAKU) 展 『舞禱～十羅刹天妖』

■会 期 2012 年 3 月 27 日 (火) ～4 月 8 日 (日) 月曜日休廊 12 時～18 時 (最終日 17 時)

平成の浮世絵師の異名を持つ東 學の『十羅刹天妖』。
未知の妖気あふれる女の性と、禱りの世界に迫ります。

[解説]十羅刹女（じゅうらせつによ）とは、仏教の天部における十人の女性の鬼神のことです。美貌あふれる十羅刹女は人の心を誘ってたぶらかし、食ってしまう鬼女でしたが、法華経の教えを聞いて改心し、善神となったといわれています。

「十羅刹 鏡の島は 高くとも ただ寄せくるは 沖つ白波」

神楽『十羅刹女』では、攻め寄る鬼神を退治する善神となり、信仰者の守護神として知られます。奈良国立博物館収蔵『普賢十羅刹女像』（重要文化財）には、宋風の着物姿の普賢菩薩のまわりに十二単をまとった十羅刹女像が描かれています。

■東 學 Gaku AZUMA プロフィール

1963 年京都市生まれ。大阪ミナミ在住の絵師・アートディレクター。父は扇絵師・東 笙蒼。幼い頃から絵筆に親しむ。14 才から 3 年間、米国留学。留学時代に描いた作品「フランス人形」は、ニューヨークのメトロポリタン美術館に永久保存されている。20 才より、グラフィックデザイナーとしての頭角を現す。1997 年、劇団維新派率いる松本雄吉にアートワークを認められ、宣伝美術を任される。以降、アングラから古典芸能、現代演劇 やクラシック音楽まで数々のポスタービジュアルを手がける。一方、現代絵師としての活動も注目されており、2003 年、ニューヨークの日本料理店から装飾画を受注、墨画「天妖廓シリーズ」を制作。2005 年、画家・鉄秀との コラボレーションによる大型墨画「麒麟舞羅」が大阪市長賞を受賞。2007 年、専門誌『広告批評』の特集“ニッポンを描く”で、墨画「闇縫い」「ろくろ首」「百目」等が紹介。2007 年 12 月、墨画集『天妖』（PARCO 出版）を刊行。

ギャラリーあしやシューレ

〒659-0016 芦屋市親王塚町 3-11

Tel&fax 0797-20-6629

E-mail info@ashiyaschule.com

URL <http://ashiyaschule.com>